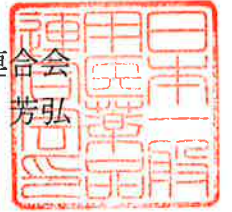


一般薬業界の正常化を訴えます

平成 30 年 8 月 9 日

日本一般用医薬品連合会
会長 三輪 芳弘



柴田氏らの新団体の方々へ

メディアでは、当連合会と類似の新団体を作られた柴田氏らが「陣営の結束を固め」被告がだれであれ訴訟に「団体として対応」と伝えられております。当方が得た情報では、なんと 2000 万円もの弁護士費用を分担することが決まったそうです。

(正確には「正直」をモットーとされる会員の方が「自分が払う」と啖呵を切られたそうですから、払っていただければよいのではないかと思います。)しかし、問題の訴訟の原告被告は個人であり、いずれも被告側が非を認めて謝罪すれば解決を図ることができるものであります。しかもパワハラにつきましては近々被告側から和解を申し出られる予定です。後は騒動の責任者の方々が退任すれば良い。いったい新団体として 2000 万円もの弁護士費用を使って何をするというのでしょうか。

ちょっと立ち止まって考えていただきたい。かねがね申しておりますとおり、当方は「勢力争い」に全く興味がありません。また、柴田氏らが離脱したことは残念ではありますが、今般結成された新団体がどのように活動しようが、業界、消費者そして日本のためである限り口をはさむ意図は全くありません。もちろん「日本一般用医薬品連合会」の名称を断りなく使用するなどして当連合会の業務を妨害しておられますのでこれはやめていただかなくてはなりません、それさえやめていただければ結構であります。繰り返します。当連合会と新団体の間に何の「勢力争い」もございません。ポケットマネーまで出して騒動を続けたい方は、どうぞお出してください。しかしそれは私情私憤というもので業界活動とは言いません。

以上のように、柴田氏らの新団体の「勢力争い」は目に余ります。大人のすることではありません。3 か月間もいたずらに業界、消費者、さらには行政に混乱を招いております。ただちに改めていただきたい。無意味な争いをやめ、業界同士ともに協力する環境を作りましょう。そこで提案がございます。一般薬業界の正常化のため、私と、新団体の責任ある方との間で話し合ひましょう。(当方はそのつもりなのですが、電話をしても居留守を使う方々がおられ、進んでおりません。)繰り返しますが、当連合会の名称の使用さえ避けていただければ話合ひに支障はございません。当方は胸襟を開き「紳士」として「正直」かつ「誠実」に話し合うつもりでございます。ご連絡をお待ちします。